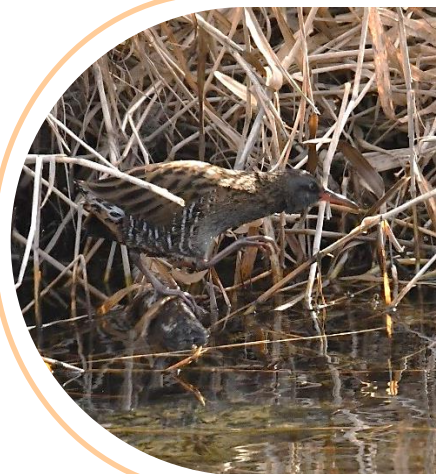


秋川の「リュウ」

冬晴れの日差しは優しいからこそ、河原の散歩のベストシーズン！

川辺の枯草はゆらゆら、川の「リュウ」は穏やかで、ずっと聞いていられるほど癒される音が聞こえてきます。その間を行き来する小鳥たちの姿や、水面に浮かぶカモやクイナなどの水鳥の仲間は、冬の寂しいイメージをくつがえす可愛らしい存在です。頻りに空を飛ぶサギやトビなどの大型の野鳥はたくましく、日に当たりながら美しく輝きます。そして、この時季の「リュウ」は水も透明で、魚類たちの姿を簡単に識別できるほどよく見えたりします。また、春が近づくにつれて、特に暖冬となっている今期は、天気の良い日は越冬中や早春の昆虫類も出現するため、シロチョウやシジミチョウの仲間はヒラヒラと春を匂わせるしぐさを見せてくれるかも知れません。やはり、「リュウ」はこの時期でも生き物の宝庫です！

さあ、あきる野だからこそ、冬だからこそ、秋川の「リュウ」へようこそ！！



こっそりクイナ

個体数が少なく、ぬかるみや浅瀬に生える植物の間で活動するため、見つけるのは一苦労ですが、静かに観察すれば・・・ビンゴ！？



珍魚のスナヤツメ

中々見る機会は少ないですが、流れが穏やかで水が綺麗なこの時季は、産卵前の成魚の姿を見かけるチャンスが高まります。小さな「竜」のようですね！



復帰のツマグロキチョウ

一度は都内で絶滅したチョウで、近年の自然復活により秋川流域でも再び分散しています。今年は暖冬のため、越冬個体に会えるかも！

気まぐれなリュウ

河川敷は、山の森林などの環境に比べて、変化が激しい。台風の上陸やゲリラ豪雨などによる増水が定期的発生するため、水が流れていたコースが変わったり、水辺の植生環境が樹木も含めて完全にリセットされることもあります。自然の再スタートが起こるたびに、強い外来植物との競争も生じるため、元の環境とは別の植生環境になってしまうこともあります。数年以内に植物で溢れる河原の姿が復活するのは確かです。



「左」2019年台風19号直後の年多摩川合流点(奥は秋川)。「中央&右」その数か月後と、2023年の旧秋川。

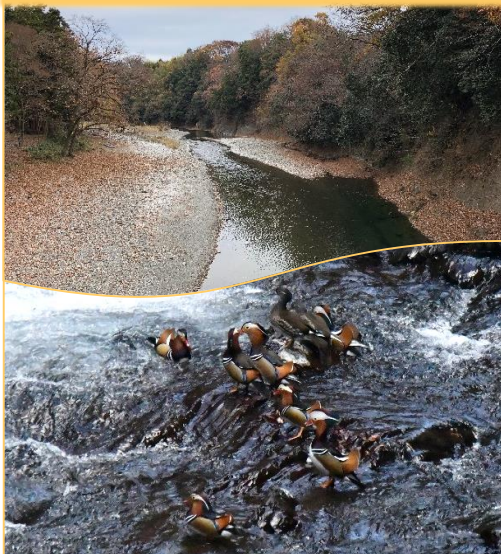


貴重な地元の声...

秋川の河川敷で調査を行う際に、散歩されている方や自然を楽しむ方、特にあきる野や八王子の市民の方と交流する機会が度々あります。何十年も前からこのエリアを見ている方は、「鳥が減ったねえ」とよく口にします。我々レンジャーよりも長いスパンで見ているため、参考となる貴重な情報を教えてくださいませんか。

今でも比較的に野鳥が多い環境にしても、やはり減少が見られるに違いありません。私はまだ短いながら、十数年前と比べてそのように感じています。その一方で、サギ類の一部やカワウなどの特定の種類だけが増えたことから、鳥が多いと誤った印象を与えてしまっていますが、多くの種類が減少、または消失したのが現状です。

2023・24年冬期 あきる野のカモ類



越冬のためにカモ類の飛来がピークを迎えます！しかし、今季は暖冬で、中々例年並みの冬の寒さが到来しないためか、現時点で数が少なめです。その中、マガモ、カルガモやオカヨシガモはそれなりの数が飛来していますが、かつて数が多かったコガモは非常に少なく、他の種類も減少しています。しかし、冬はまだ終わってないため、今後、寒波などの影響で一気にたくさんのカモ類が飛来してくる「カモ」知れませんので、お見逃しなく！



西多摩の名山をバックに、秋川上空のマガモ軍団

秋川などの水辺環境を訪れるみなさん、今年もカモたちをよろしくお祈いします！

* 過去の関連新聞： Vol.97 (2018年7月号)「多摩川/秋川のアイ」 / Vol.129 (2021年3月号)「カモ調査」